

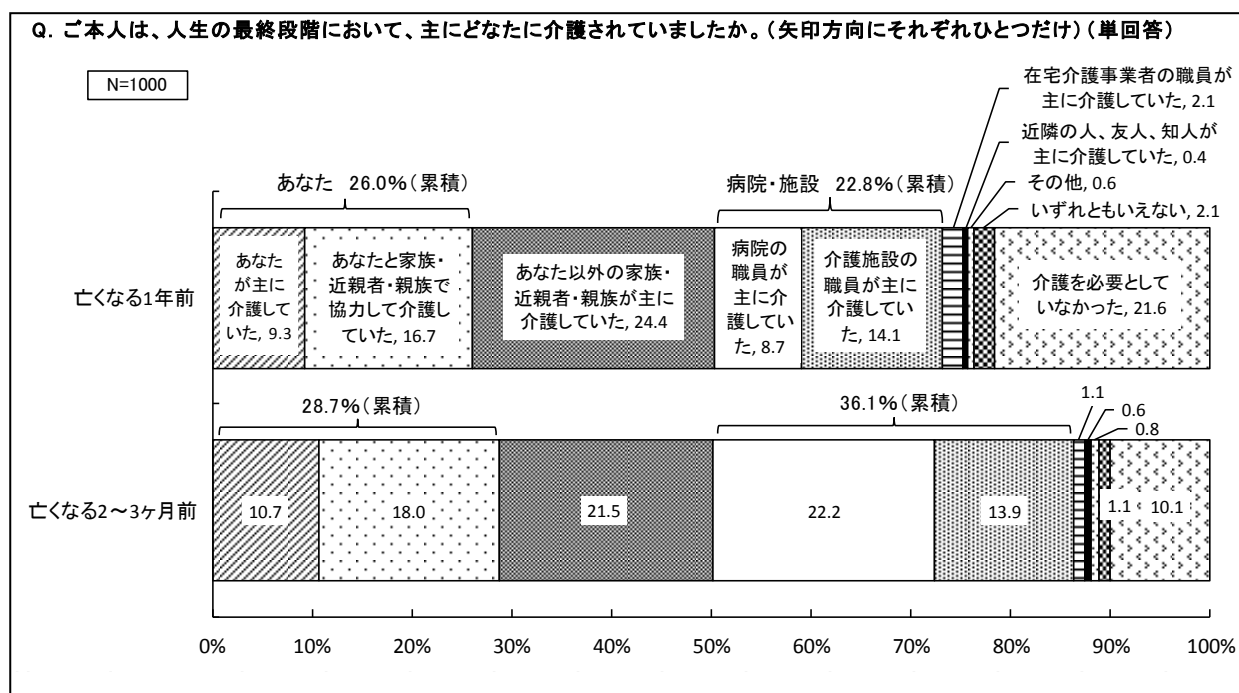
看取りの経験者を対象にしたアンケート結果について【資料編】

調査結果のその他の主な結果を資料編として下記に示します。

1. 主に介護していた人

- 人生の最終段階において主に介護していた人については、「あなた」が亡くなる 1 年前は 26.0%、亡くなる 2～3 ヶ月前は 28.7%と横ばいだが、「病院・施設」が亡くなる 1 年前は 22.8%、亡くなる 2～3 ヶ月前は 36.1%と増えている。

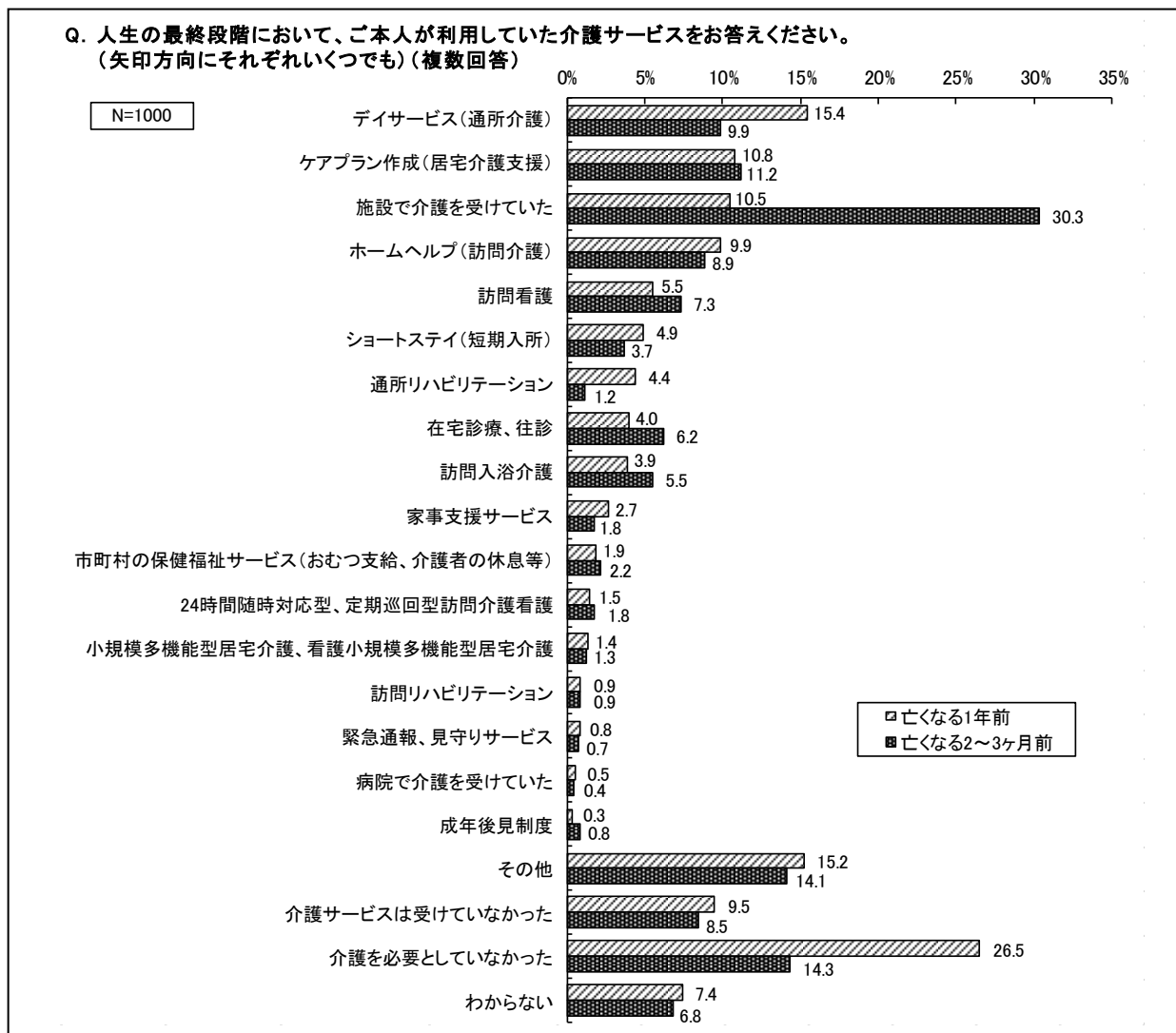
図表 1 人生の最終段階において、主に介護していた人



2. 利用していた介護サービス

- 人生の最終段階において利用していた介護サービスについては、亡くなる1年前は「デイサービス（通所介護）」が15.4%、「ケアプラン作成（居宅介護支援）」が10.8%、「施設で介護を受けていた」が10.5%である。亡くなる2～3ヶ月前は「デイサービス（通所介護）」が9.9%と減り、「ケアプラン作成（居宅介護支援）」が11.2%で横ばい、「施設で介護を受けていた」が30.3%と3倍近く増えている。
また、亡くなる1年前は「介護を必要していなかった」が26.5%だが、亡くなる2～3ヶ月前は14.3%と半減している。

図表2 人生の最終段階において利用していた介護サービス

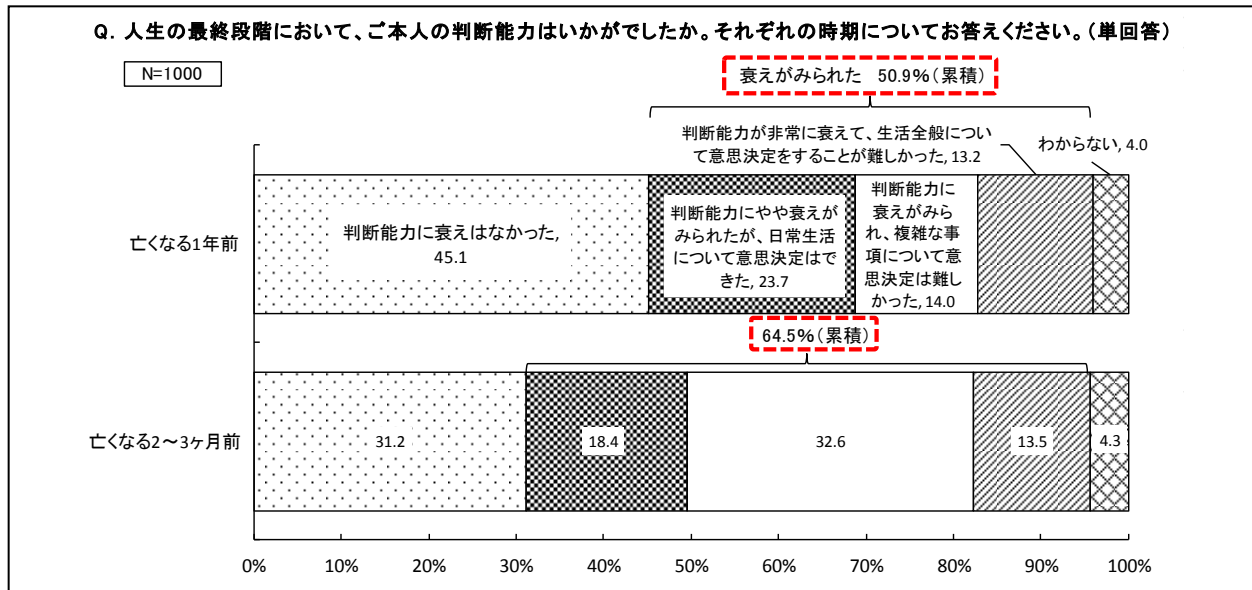


(注)「介護サービスは受けていなかった」、「介護を必要としていなかった」、「わからない」を選択した場合、それ以外の選択肢は選べない設定となっている。

3. 判断能力の衰え

- 本人（亡くなられた方）は、エンドオブライフにおいては判断能力に衰えがみられる。
「亡くなる1年前」に「判断能力に衰えが見られた」50.9%
「亡くなる2～3ヶ月前」は64.5%と6割以上に上昇している。

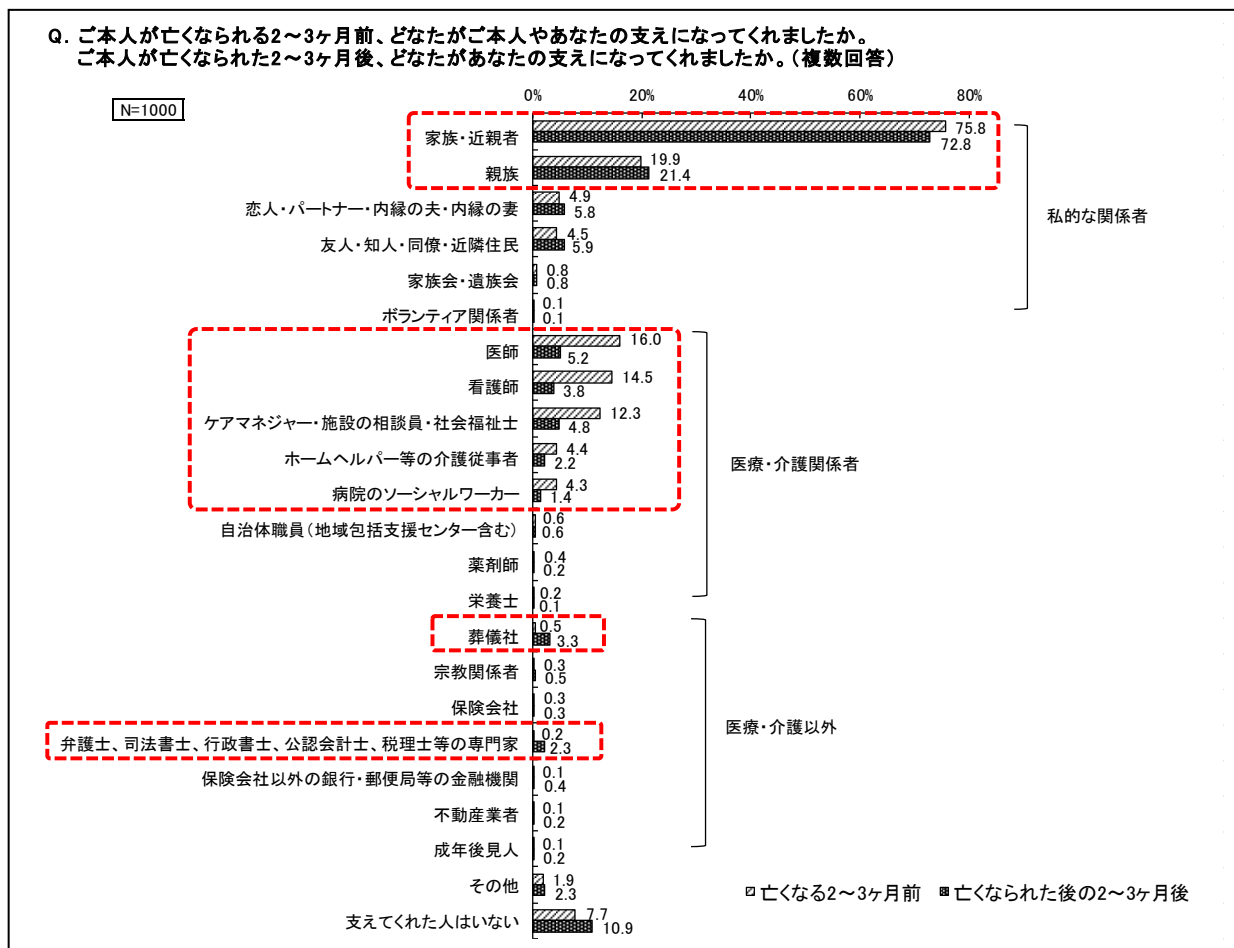
図表3 人生の最終段階における本人の判断能力



4. 家族・近親者・親族以外の援助者・支援者は時の経過で変わる

- 本人や家族・近親者を支えてくれた人については、「家族・近親者・親族」は「亡くなる2～3ヶ月前」、「亡くなられた2～3ヶ月後」ともに支えとなり続けている。「医療・介護関係者」は「亡くなる2～3ヶ月前」の支援に関わる割合が高く、「亡くなられた2～3ヶ月後」には割合が低くなっている。一方、「葬儀社、弁護士・司法書士等の専門家等」は「亡くなられた2～3ヶ月後」の方が高くなっている。エンドオブライフ・ケアのキーパーソンは「家族・近親者・親族」であるが、その他、様々な援助者・支援者も時期やニーズに応じて関わっていることがうかがえる。

図表 4 本人が亡くなる2～3ヶ月前後の支え

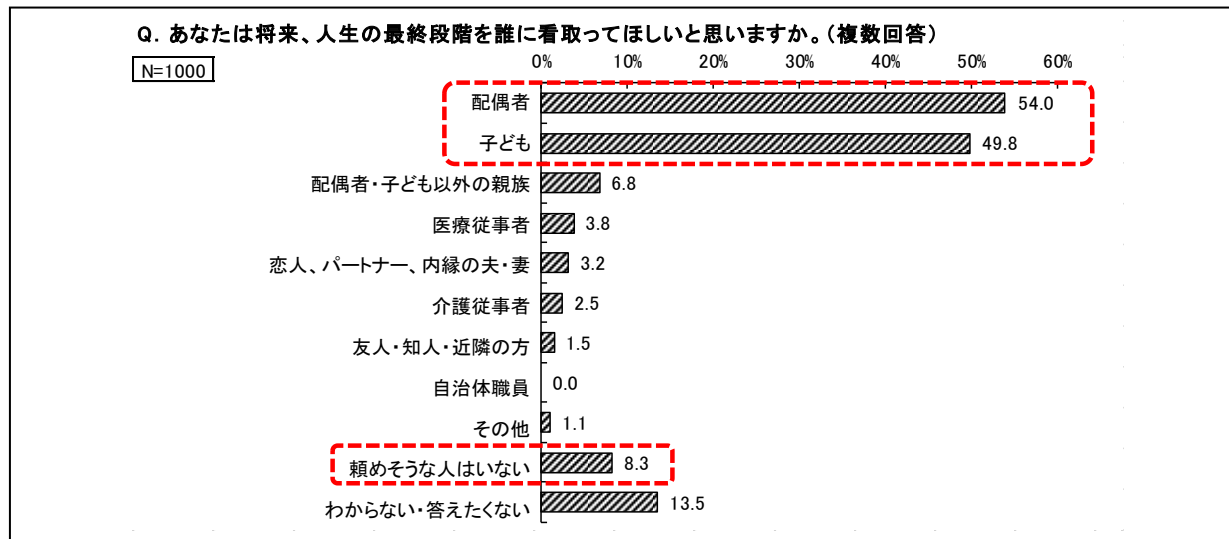


(注)「支えてくれた人はいない」を選択した場合、それ以外の選択肢は選べない設定となっている。

5. 将来、エンドオブライフ・ケアを頼めそうな人は「配偶者」と「子ども」

- 「エンドオブライフ・ケアを頼めそうな人」については、「配偶者」が 54.0%、「子ども」が 49.8%と半数前後で突出しており、「その他の続柄」はいずれも 10%未満にとどまる。「頼めそうな人はいない」も 8.3%いる。自身のエンドオブライフ・ケアを託す相手は、だれでもよいわけではなく、血縁関係、姻戚関係、信頼関係などが大切であることがうかがえる。

図表 5 人生の最終段階を看取ってほしい人

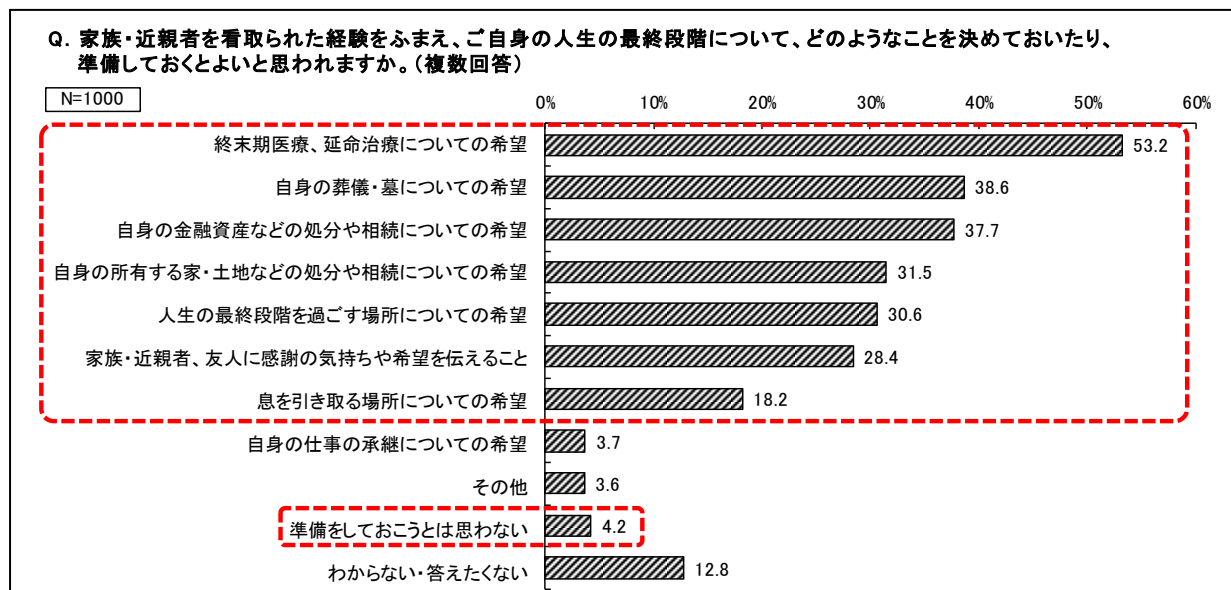


(注)「頼めそうな人はいない」、「わからない・答えたくない」を選択した場合、それ以外の選択肢は選べない設定となっている。

6. 「エンドオブライフ・ケアについて決めておいたり準備しておくこと」とよいことの一位は「終末期医療、延命治療についての希望」の 53.2%

- 「自身の人生の最終段階について、決めておいたり準備しておくこと」とよいことについては、「準備をしておこうとは思わない」は 4.2%にとどまっている。「終末期医療、延命治療についての希望」が 53.2%と最も多く、「自身の葬儀・墓についての希望」38.6%、「自身の金融資産などの処分や相続についての希望」37.7%、「自身の所有する家・土地などの処分や相続についての希望」31.5%、「人生の最終段階を過ごす場所についての希望」30.6%、「家族・近親者、友人に感謝の気持ちや希望を伝えること」28.4%、「息を引き取る場所についての希望」18.2%と様々な事柄について準備の必要性を感じている。

図表 6 ご自身の人生の最終段階についての希望と準備

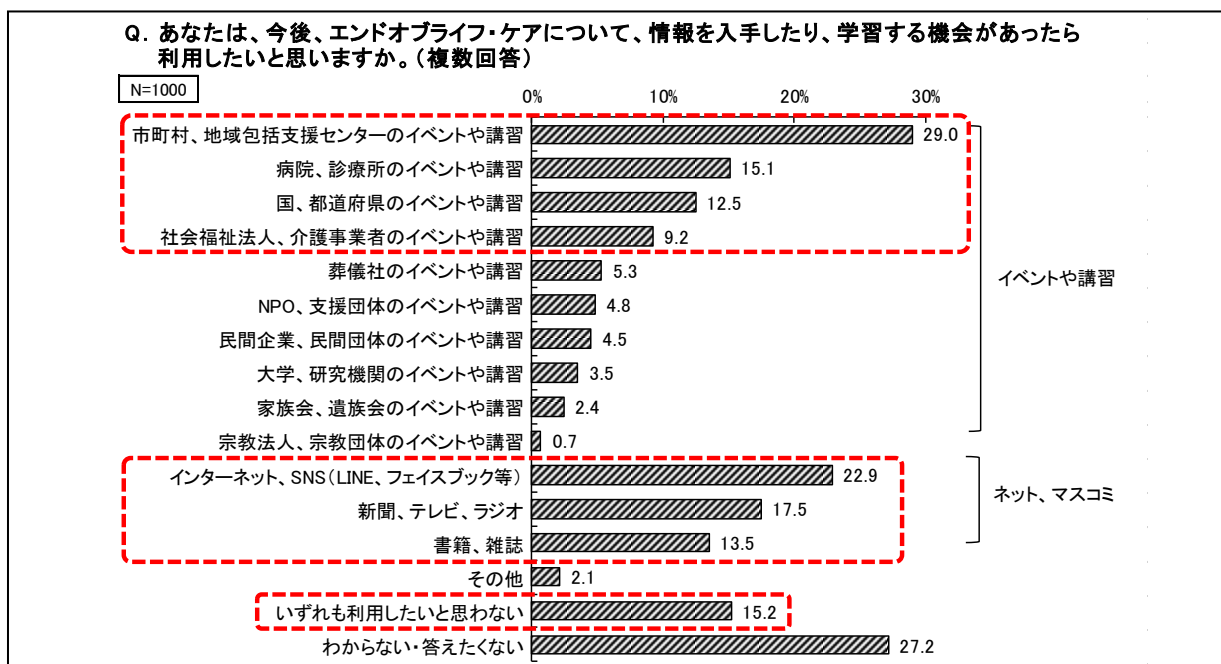


(注)「準備をしておこうとは思わない」、「わからない・答えたくない」を選択した場合、それ以外の選択肢は選べない設定となっている。

7. 高い学習意欲

- 「エンドオブライフ・ケアを学習する機会があったら利用したいか」については、「利用したいと思わない」は 15.2%にとどまっている。「市町村、地域包括支援センターのイベントや講習」が 29.0%と最も多く、次いで「病院、診療所のイベントや講習」15.1%、「国、都道府県のイベントや講習」12.5%、「社会福祉法人、介護事業者のイベントや講習」9.2%など、対面で学習できる「イベントや講習」を希望する割合が高い。「インターネット、SNS（LINE、フェイスブック等）22.9%、「新聞、テレビ、ラジオ」17.5%、「書籍、雑誌」13.5%と「ネット、マスコミ」で学習したいという希望も多い。

図表 7 エンドオブライフ・ケアの学習機会の利用



(注) 「いずれも利用したいと思わない」、「わからない・答えたくない」を選択した場合、それ以外の選択肢は選べない設定となっている。